

木版画で 年賀状を作ってみよう

11月号では型紙を切り抜いたステシルをご紹介しましたが、今回は本格的に版木を使った木版画の年賀状の作り方です。

寒さ深まる中、じっくりと版画を制作して刷るのもいいものですよ。刃物を使うのでケガに注意しながら、作ってみましょう。



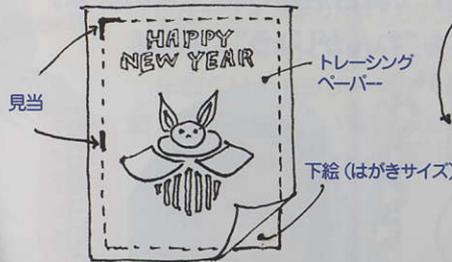
PFCアドバイザー

糸数 富美江

【用意するもの】

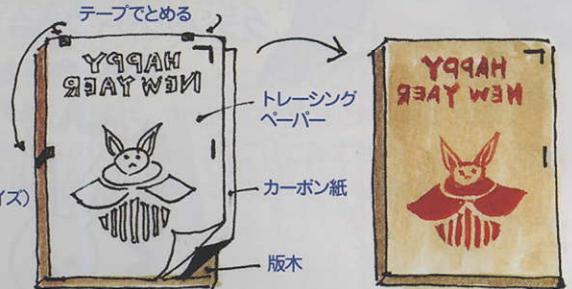
- 年賀はがき
- はがきサイズの下絵
- はがきサイズの版木
- 版木刀
- トレーシングペーパー
- カーボン紙
- セロテープ
- 赤と黒の絵の具
- 筆と歯ブラシ
- パレン

1. 下絵を写す



はがきサイズの紙に絵と文字をレイアウトして下絵を作り、トレーシングペーパーに書き写す。

2. 版木に下絵を転写する



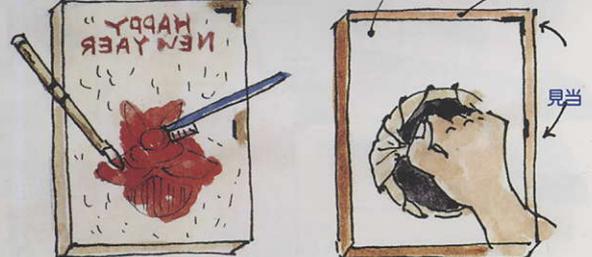
トレーシングペーパーを裏返しにして版木の上に置き、間にカーボン紙を挟んで堅い鉛筆で下絵をなぞる。見当も忘れずに写し取ってね。間違っただけで彫ってしまうように凸部(彫り残す部分)に赤い絵の具を塗っておきましょう。

3. 版木を彫る



凹部(白い部分)を彫る。

4. 版を摺る



筆で絵に赤い絵の具を置き、歯ブラシで全体に伸ばす。はがきをニカ所の見当に合わせてのせ、パレンをかける。絵を摺り終わったら版木をよく洗い、乾いてから文字に黒い絵の具をのせて同じように摺って、ハイ、出来上がり!



年賀状制作には版画が一番楽しい!

2010年もあと1ヶ月、私も10月末から2011年、「うさぎ」年の年賀状を制作し始めました。最初に年賀状を版画で制作してから43年、受け取る人の顔を思い出しながら、毎年休まず版画で創っております。版画には、木版画、銅版画、リトグラフ、シルクスクリーンと色々な表現方法があります。それらの版表現にはすばらしいそれぞれのマチエール*があります。人間の文化活動にはなくてはならないマチエール表現は、多くの世界の人々を感動させ芸術の世界へと導いてくれます。その表現の最小の物が年賀状だと思っております。年賀状を版画で創る文化は日本で生れ、育ったものです。日本のすばらしい「心」の文化を皆で楽しんでみませんか! 今年も、1年に1度の年賀状版画のマチエール表現を楽しみながら制作をしております。木版画で創る年賀状650枚を12月20日までにポストに入れたいと思っております。もし受け取った方はご感想を一報ください。

*材料、材質、素材を意味する語で、作品自体の表面の平滑さとかごつごつした感じなど素材の選択、用法によって創り出した肌合い、あるいは、絵画作品の場合には絵肌を意味する場合もある。



版画家 かわち せいこう 河内 成幸

プロフィール

河内 成幸 KAWACHI Seiko
1948年 山梨県上野原市生まれ
1973年 多摩美術大学油絵科卒業
2007年 名古屋造形大学客員教授
2009年 第7回全日本年賀状大賞
コンクール審査委員長(版画部門)



題名: 翔べ郵便馬車



今年の年賀状の下絵